



えんがるの



夏

強く照りつける
太陽の日差しは
カラッ!として
いて心地よい

- ① 8月上旬に開催されるまるせつ観光まつりの目玉の一つが、迫力満点の花火大会。「ドーン」という打ち上げ音が山あいには響き渡る
- ② 町の蝶「オオイチモンジ」の繁殖にも取り組んでいる昆虫生態館では、色々な昆虫が飼育・展示されている
- ③ 夏休み期間中には多くの家族連れがキャンプを訪れる
- ④ 公園の一番の目玉は何と言っても森林鉄道蒸気機関車・雨宮21号

遊

丸瀬布森林公園「いこいの森」

えんがるがいとまっぷP18〜④

丸瀬布市街から道道上武利丸瀬布線を南に向かつて車を走らせる
と、森と水に囲まれた自然豊かな公園にたどり着きます。これが丸瀬布森林公園「いこいの森」です。
公園の目玉は、何と言っても園内に敷設された約2キロメートルの鉄路を走る「森林鉄道蒸気機関車・雨宮21号」。木材運搬用として活躍したこの蒸気機関車は一般の蒸気機関車と比べて小ぶりですが、何トンもある木材を運搬していただけあって迫力は十分。公園を訪れた子どもたちを乗せて、煙を上げながら元気に走っています。
また、バンガローやオートサイトなどが整備され、車の乗り入れが可能なオートキャンプ場は、キャンパーや家族連れでにぎわう人気のスポット。園内でパーベキューを楽しんだり、散策やフィッシングなどのアウトドアを満喫したりすることができます。
周辺には、色々な昆虫が展示されている昆虫生態館や日帰り入浴が可能な温泉などもあり、いこいの森での楽しみ方は無限大です。
8月上旬には、まるせつ観光まつりも開催。中でも、間近で打ち上げられる花火大会は必見です。

いこいの森ガイド

【オートキャンプ場】

- ◆入村料
小学生以上 休憩 200円 1泊 300円
高校生以上 休憩 300円 1泊 500円
 - ◆バンガロー利用料
車両1台 休憩 1,000~1,800円
1泊 2,500~4,500円
 - ◆第1オートサイト 1区画1泊 2,500円
 - ◆第2オートサイト 1区画1泊 2,000円
 - ◆フリーサイト 大型車1台1泊 1,000円
普通車1台1泊 500円
その他1台1泊 200円
- ※貸しテント・寝袋など有り

【森林鉄道蒸気機関車・雨宮21号】

- ◆乗車料
4歳~中学生まで 250円
高校生以上 500円
30人以上の団体乗車 2割引
- ◆軌道自転車
4歳~中学生まで 250円
高校生以上 500円
※運行日は事前にご確認ください
- 【昆虫生態館】
- ◆入館料
小・中・高校生 150円
大人 400円
30人以上の団体 2割引

【郷土資料館】

- ◆入館料
小・中・高校生 50円
大人 150円
30人以上の団体 2割引

【パークゴルフ】

- ◆用具貸出料
用具一式(1回につき) 300円

【丸瀬布温泉やまびこ】

12ページを参照してください。

■問合せ

遠軽町丸瀬布総合支所産業課
☎0158-47-2213

ミニ知識：雨宮21号は、東京の雨宮製作所で製造された国産の11トン機関車。昭和3年に配置され、昭和33年に廃止されるまで、国有林から切り出した丸太や生活物資の搬送に携わりました。



①



②



③

①～③大雪の短い夏を謳歌するように可憐に咲く高山植物たち

①コマクサ ②イワウメ

③キバナシャクナゲ

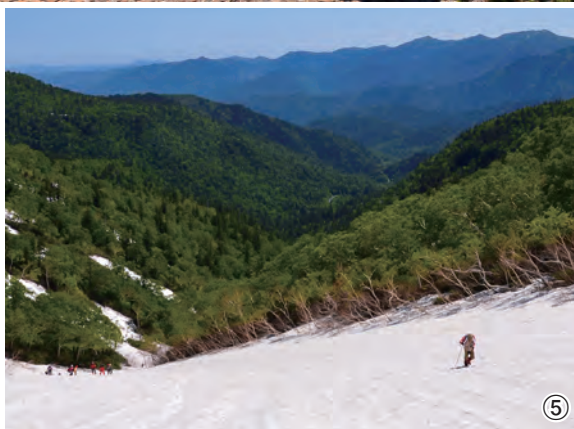
④ひらやまの山頂からは、旭岳や黒岳といった表大雪の山並みが一望できる

⑤初夏には雪渓が涼しげに迎えてくれる

⑥初夏の山頂は一面、高山植物の花畑



⑥



⑤

遊

生田原川

えんがるがいとまっぷ P18 ↓ ⑥

町内を流れる湧別川の支流生田原川は、北海道内でもヤマベ(ヤマメ)が生息する川として有名で、毎年7月1日の釣り解禁日には、道内各地から多くの太公望たちが

遊

ひらやま

えんがるがいとまっぷ P19 ↓ ⑤

北海道の屋根とも呼ばれ、多くの登山者たちを魅了する大雪山系。その北側に位置するひらやまは、山頂から見渡す景色の雄大さが魅力で、初心者でも登頂できる山として知られています。

登山口から山頂までは約2時間30分の道のり。道中では、2本の勇壮な滝が私たちを迎えてくれ、山頂からは、2千メートル級の山々が連なる表大雪の山並みが眼前に広がり、周囲にはコマクサをはじめとした数々の可憐な高山植物たちが疲れた身体を癒してくれます。

中でも、初夏のころには雪渓が登山者たちを涼しげに迎え、山頂では厳しい風雪を耐え抜いてきた高山植物たちが、競うように短い夏を謳歌する姿は、感動すら覚えることでしょう。

訪れます。

町の魚でもあるヤマベは、サケ科に属するサクラマスの陸封型の魚。北海道では、水産資源の保護を目的に禁漁期間が定められており、オホーツク管内の河川では、毎年7月1日が解禁日となります。

また、ヤマベには、釣る楽しみのほかに食べる楽しみも。天ぷらやフライなどに調理して食べるのが一般的ですが、これをもう一工夫して、ヤマベ井として味わってみてはいかがでしょうか。サクサクに揚げたヤマベに甘めの醤油ダレをかけて、アツアツのご飯と一緒に頬張れば、口いっぱい幸せが広がります。



⑪

①生田原市街では、ヤマベ井を提供する食堂も

②毎年7月1日の解禁日には多くの太公望が集まる清流「生田原川」



②

ミニ知識：大雪山系の気象は、本州の3,000メートル級の山々に匹敵する厳しさと言われています。登山をする場合には、天候の変化に注意し、十分な装備で登りましょう。